

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業のタイトル (科目名) 保育内容総論	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 柳田真理子	当該科目における実務経験 保育士
授業の回数 12 回	時間数 (単位数) 24 時間 (2 単位)	幼稚園教諭専攻科 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい及び、概要] ・保育内容の5つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は、保育実践では、分断されて行われるものではない。子どもが、具体的な生活や遊びを経験する中で、それらが相互的に関わっていることを理解する。また、保育者として、保育・教育の実践の中で総合的に、5つの領域を捉える視点を持てるようにし、保育を行うことができる知識と技術を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 保育者養成施設における養成課程の「保育内容総論」とは 2. 子どもの発達と保育内容—幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における各領域のねらい、内容、指導上の留意点— 3. 子ども理解・保育理解と保育内容—子ども観と保育観の理解— 4. 子ども理解・保育理解と保育内容—子ども観・保育観と保育内容— 5. 保育所保育指針の理解、及び保育所における幼児の経験と発達に即した保育と小学校における教科とのつながり 6. 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び幼稚園における幼児の経験と発達に即した教育と小学校における教科とのつながりを考える 7. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び認定こども園法・制度の理解と保育内容 8. 情報科社会における保育の課題—情報機器や教材の望ましい活用法とは— 9. 教育課程・保育の全体計画と指導計画、及び指導案の作成 10. 指導案の作成を踏まえた模擬授業(乳児対象)と保育の評価 11. 指導案の作成を踏まえた模擬保育(幼児対象)と保育の評価(1)—保育者の子どもへの関わりを通して— 12. 指導案の作成を踏まえた模擬保育(幼児対象)と保育の評価(2)—保育実践における環境の再構成を中心として—			
[使用テキスト] 「実践保育のための保育内容総論」(大学図書出版) [参考文献] 「幼稚園教育要領」(フレーベル館)「幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」」(ぎょうせい) 「最新保育講座3 こども理解と援助」(ミネルヴァ書房)保育内容総論 あなたならどうしますか?(萌文書林)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			